



世界にたった一つのオリジナル絵本 親子の絵本「だっこ だっこ」

市では、親子のコミュニケーションに役立ててもらおうと、**ふるさと納税**を活用して、オリジナル絵本「だっこ だっこ」を作製しました。4月から乳児健診などで、生後4カ月児に配布しています。

今月号では、「だっこ だっこ」と併せて、その取り組みを紹介します。



「だっこ だっこ」計画

「だっこ だっこ」の計画は、「すきスキダイいすぎ事業」の一つとして始まりました。
*「ブックスタート」として、市販の絵本を配布する自治体が多い中、本市ではオリジナル絵本を作ることになりました。

絵本の作製

「だっこ だっこ」は、子育て・こども課が中心となつて企画・編集し、作製されました。

子育て支援に取り組む中で、乳幼児期における親子の触れ合いの重要性が浮かび上がり、望ましい親子の触れ合いについて積極的に伝えていく必要があると感じました。

そこで、お母さんから子どもに愛情を伝えるためのきっかけづくりの一つとして、絵本作りを計画しました。

子育て・こども課、読み聞

※ブックスタートとは「健診などに参加した親子に絵本を手渡すことで、赤ちゃんとの出会いをつくる運動です。」

かせグループ「おはなしの会ポケット」、母子保健推進員、療育関係者、図書館職員の人々で、ワーキンググループ「だっこだっこ」の会を結成し、昨年8月、第1回目の会議を開きました。

数点のアイデア絵本の原画の中から、0歳の赤ちゃんの目にパツと飛び込んでくるような、シンプルでインパクトがあり、親子のスキンシップが取れる内容となつている「だっこ だっこ」を選び、さらに、手形を入れるなどのアイデアを出し合い、本格的に絵本作りが始まりました。

手に取りやすい大きさ、子どもの好む色合い、言葉のリズムなど一つ一つを話し合い、何度も校正を重ねて2月によりやく完成しました。

「だっこ だっこ」には工夫がいっぱい!

「だっこ だっこ」には、親子でスキンシップができるような工夫がされています。

動物の親子が、手を合わせたり鼻をくっつけたりする様子や、人の親子が「すきすき〜」とほっぺを合わせる様子が描かれ、読み聞かせをしながら親子でスキンシップが楽しめるような内容になっています。また、文の中には子どもの名前が書き入れられるようになっていています。

名前を呼び掛けながら読むことで、お母さんの深い愛情がより強く伝わるように工夫されています。

さらに健診時に赤ちゃんの手形を取り、親子の写真を撮影し、最初のページに貼ってオリジナル絵本を完成させます。子どもへのメッセージも書き込めます。

裏表紙には、つばきのイラストや不老山総合公園、鷹島肥前大橋、福島土谷棚田など松浦市をイメージした写真も載っています。子どもが大きくなったときに、お母さんとの心地よい思い出とともに、ふるさとを思う気持ちを思い起こしてもらえようと松浦を意識して作られています。

